

消防ヒヤリハットデータベース事例回答シート

【事故概要について】

1. 事故・ヒヤリハットの別	事故
2. 体験した事例の名称	はしご車のワイヤーのゆるみを解除しようとして起きた事故
3. 体験した事例の中心的要素	通常リフターワイヤーがガイドブーリーを通ってリフタードラムに巻きついているのですが、ガイドブーリーを通っていないのを発見したため訓練を中断してリフターワイヤーが正常にガイドブーリーに通るための作業を実施しました。 はしごを収納し手動操作にてリフターワイヤーをゆるませ、ガイドブーリーに通すことはできましたが、リフターワイヤーの約1メートルのゆるみを解除することができなくなったので、アウトリガーパー出し作業姿勢を取り、バスケットを離脱し、はしごの長さ15メートル、角度45度に設定し、基部操作にてリフターの上昇下降を手動操作で行い、リフターワイヤーの動きを観察していたところ約3メートルのゆるみが発生し、そのゆるみが車体右後部ボディに引っ掛かり、ボディを傷つけ始めたため、操作停止しました。停止後、ワイヤードラムを逆回転させワイヤーをゆるませようと試みましたが、できなかったため、徒手にて、リフターワイヤーを保持し引っ掛けを解除すると、操作を行っていないにも関わらず、突然、リフターワイヤーがリフタードラムに巻き込まれ、保持していた左手が手袋ごとリフターワイヤーとリフタードラムに挟まれ左薬指を負傷しました。
4. 体験した事例の原因・理由	普段実施したことのないワイヤーゆるみの解除を試みたため、ワイヤーが車体ボディに引っ掛けたのが原因だと思います。

【体験した事例の直接的原因について】

1. 体験した事例の直接的な原因	行動の意志決定に問題があった。
------------------	-----------------

【体験した事例について】

1. 発生日時	平成27年2月8日 午後5時頃
2. 発生した当時の天候	晴れ
3. 発生した活動現場	屋外：庁舎前のスペース
4. 体験した事例の種類	回答者が、自分自身で負傷した。
5. 事故の程度(ヒヤリハットの場合、仮に負傷したときの程度)	軽傷の怪我
6. どのようなことが起きたのか (起きそうになったのか)	(機器等)巻き込まれ、はさまれ
7. 事例体験時の活動	演習訓練、[救助(通常時)]
8. (7の活動中)どのような作業中に発生したか	その他：はしご車取扱い訓練中
9. 同様の体験は、これまでにどの程度の頻度で体験していますか。	初めて体験した

10. ヒヤリハット体験当事者の属性（回答者は当事者A）



○当事者A	年齢[30]歳、勤続年数[6]年、現場経験年数[6]年、階級[消防士長] 同様の活動[初めて]、任務[隊員]
○当事者B	年齢[45]歳、勤続年数[23]年、現場経験年数[20]年、階級[消防司令補] 同様の活動[初めて]、任務[車長]
○当事者C	年齢[28]歳、勤続年数[5]年、現場経験年数[5]年、階級[消防士] 同様の活動[初めて]、任務[隊員]
○その他(当事者が4人以上の場合)	当事者D 年齢25歳 勤務年数2年 現場経験2年 消防士 同様の活動初めて 隊員

11. 事例発生の経過。



	誰が(何が)	なにをした	その他・備考など
経過1		はしご車取扱い訓練を実施しようとする。	
経過2	当事者C	リフターワイヤーがガイドプーリーを通っていないのに気づき、リフターワイヤーがガイドプーリーを通るよう試みる。	
経過3	当事者B	安全管理を実施する。	
経過4	当事者ACD	車庫内で手動操作にてリフターワイヤーをゆるませ、ガイドプーリーに通すことはできたが、リフターワイヤーの約1メートルのゆるみを解除することができなくなった。	
経過5	当事者ACD	車両を車庫前に出し、アウトリガーを張り作業姿勢を取り、バスケットを離脱し、はしご長さ15メートル、角度45度に設定する。	
経過6	当事者C	基部操作にてリフターの上昇下降を手動操作で実施する。	
経過7	当事者AD	リフターワイヤーの動きを観察していたところ約3メートルのゆるみが発生、そのゆるみがはしご車ボディに引っかかり、ボディを傷つけ始めたので操作停止する。	
経過8	当事者C	ワイヤードラムを逆回転させ引っかかりを解除しようと試みるが、できなかつたため、再度操作停止する。	
経過9	当事者A	徒手にてリフターワイヤーを保持し、下に引っ張る。	
経過10	当事者D	徒手にてリフターワイヤーを保持し、横にスライドさせる。	
経過11	当事者A	リフターワイヤーがボディから解除されると同時にリフタードラムに巻き取られる。その際、左手の手袋ごと薬指をはさまれ、負傷する。	
経過12			

【その事例発生時の状況について】



○事故の場合：事故が起きたのはどうしてだと思うか？

○ヒヤリハットの場合：ヒヤリハットで済んだのはどうしてだと思うか？

危険情報を把握、予見できなかった。資機材の操作がうまくいかなかった。

○心理・体調について

a. あせりを感じていた

・早く、現場到着や、活動をしなければならないという“あせり”を感じていた。	いいえ
・被害拡大が消防活動を上回っており“あせり”を感じていた。	いいえ
・周辺の野次馬などにより“あせり”を感じていた。	いいえ

b. 注意力が欠如していた

・1つの事象に集中し、他の事象への注意力を欠いた。	はい
・活動終息(鎮火等)や活動内容が些細だったため注意力を欠いた。	いいえ
・体調不良や疲れにより注意力を欠いた。	いいえ

c. 経験・知識が不足していた。

・活動内容が、自己の能力や技量を超えていた。	いいえ
・活動中に起こりうる危険について認知していなかった。	はい
・活動に対する経験が不足していた。	はい

d. 心身の不調があった。

・体調が悪かった。	いいえ
・悩み事があった。	いいえ

○装備・資機材について

e. 資機材の故障・不具合があった。

・装備・資機材自体に問題があった。	はい
・装備・資機材の使用方法が誤っていた。	いいえ
・装備・資機材の対処能力を超えていた。	いいえ
・必要とする装備・資機材がなかった。	いいえ

○活動環境について

f. 障害物や自然環境(雨・濃煙)によって視界がさえぎられた。

・障害物(建物等)のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ
・特異環境(煙、暗闇、降雨等)のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ

g. 行動しにくい環境だった。

・狭隘な場所であった。	いいえ
・暑かった(寒かった)。	はい
・野次馬が多かった。	いいえ
・現場周辺の地理に不案内だった。	いいえ

h. 足場が悪かった。

・足元が躊躇したり滑りやすかった。	いいえ
・足元の強度が不足していた。	いいえ

○指揮・管理について

i. 適切な指示が得られなかった(適切な指示を与えられなかった)。

・活動指示が得られなかった。(無線が通じない等。)	いいえ
・指示内容に誤り・偏りがあった。	いいえ
・指示内容が実施困難であった。(周辺環境に、隊員技量の把握に欠けた。)	いいえ

k. 関係者間の情報伝達・役割分担が不十分だった。

・隊員の連携が不十分だった。	いいえ
・隊員が不足していた。	いいえ

○その他

l. その他の理由があった。

ゆるんだワイヤーがはしご車ボディに引っ掛けたため。

【事故発生後の取り組みについて】



○注意力欠如、焦り等の対策について

安全確認の徹底。危険予知訓練の徹底。

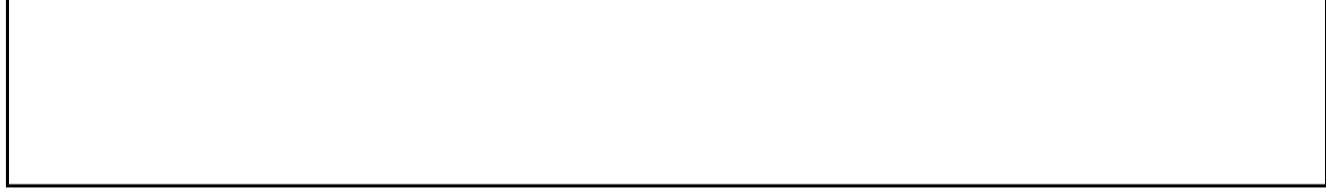
○装備・資機材の対策について

普段行わない、緊急時の手動操作を使用しない。

○活動環境の対策について

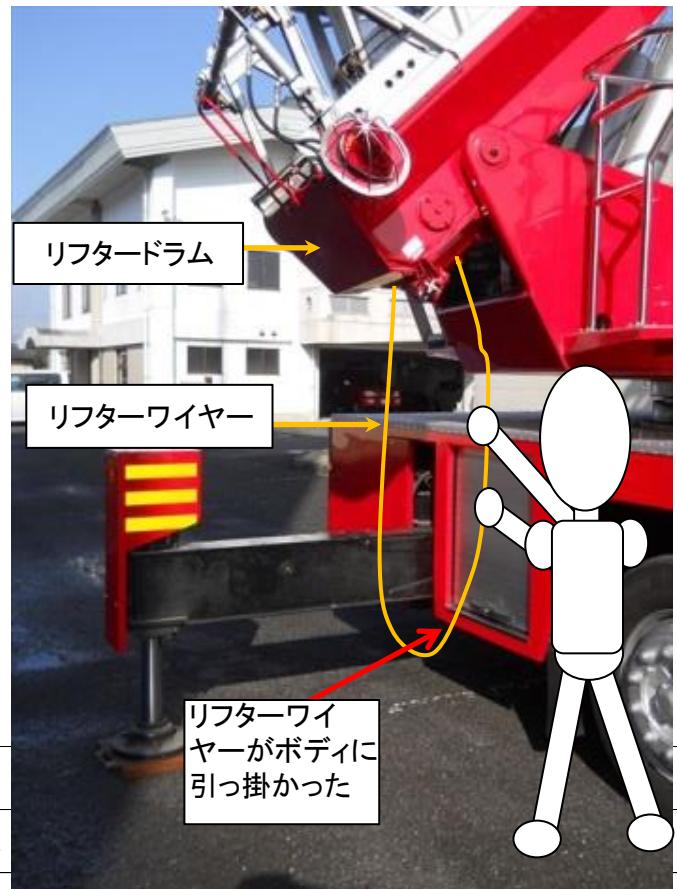


○指揮・情報伝達の対策について



事故状況

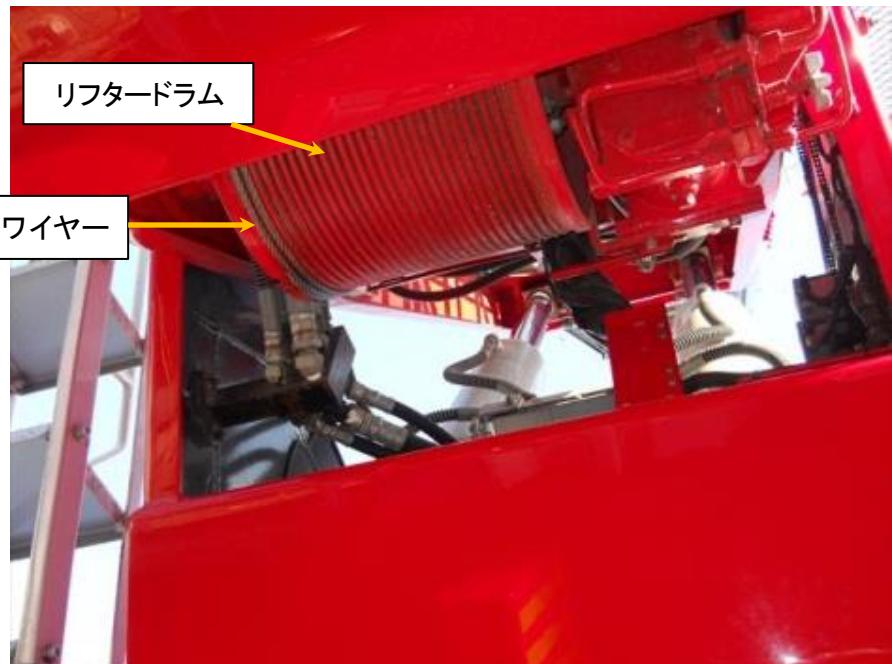
No.1



説明

リフターワイヤーがボディに引っ掛けたり、解除しようと下にリフターワイヤーを引っ張る。

No.2



説明

リフターワイヤーとリフタードラムの間に左薬指を挟み負傷。